

# 矢作川流域圏懇談会通信

H28 山部会編 vol.2



発行日：平成 28 年 7 月  
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

## ◆第 33 回山部会WGを開催しました！

6月17日(金)に第33回山部会WGが豊田市にて開催されました。今回のWGでは、山村再生担い手づくり、矢作川流域山村ミーティング、矢作川流域圏森づくりガイドライン、矢作川流域木づかいガイドラインに関する今後の活動方針を話し合いました。

日時：平成 28 年 6 月 17 日 (金)  
場所：豊田市職員会館 2 階 第 1 会議室  
参加者：15 名 (事務局む)



## ◆主な会議内容

### 1. 山村再生担い手づくり事例集について

山村再生担い手づくり事例集は、平成 27 年度までの 3 ヶ年に矢作川流域市町村から山村漁村の振興に貢献する 64 団体への取材を行い、とりまとめたものです。今年度は、先月の意見交換を受けて“山村再生担い手づくり事例集「その後いかがお過ごしですか？」プロジェクト”を立ち上げます。

【目的】事例集づくりで築き上げた人間関係を維持し、得られた情報のネットワーク化を進め、取材者と取材先、流域圏懇談会相互の交流を促進する。

【内容】事例集作成のために訪れた取材先を再訪し、取材後にどんな変化があったかを聞く。今年度は平成 25 年度に行った「事例集Ⅰ」の取材先を訪問する。

【その他】取材先には、その市村で WG を開催する際に参加を呼びかける。



### 2. 矢作川流域山村ミーティングについて

山村ミーティングでは、前月提案した以下の活動を考えています。

#### ①流域に関わるお祭りの実施に向けて

- ・矢森協の中では提案済であるが、今年は川部会のメンバーと一緒にやる。
- ・今年は小規模でもいいから、イベントを始める。

#### ②流域の森林組合の作業班を対象にしたヒアリングに向けて

- ・ミーティングをする前に、人間関係を築くためのヒアリングを行う。
- ・根羽、恵那 (恵南)、豊田 (稲武、旭、小原・藤岡、足助・下山)、岡崎を対象とする。



### 3. 矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

森づくりガイドラインでは、大きく 3 つの項目について現状報告・意見交換を行います。

#### ①森づくりガイドライン作成上の考え方

木づかい、木質バイオマスとともに流域に不可欠な森林施策について示す。

#### ②平成 28 年度 豊田市森林課主要事業と予算

継続事業は「森づくり構想(4 事業)」であり、新規事業は「中核製材用地整備費」となっている。

#### ③矢作川流域圏における近年の間伐面積の実績

今年度も流域の関係団体に情報提供を依頼して、流域圏の現状を把握する。



### 4. 矢作川流域木づかいガイドラインについて

木づかいガイドラインでは、昨年度の活動総括と今年度の活動方針を報告します。

#### ①平成 27 年度の活動総括

- ・木づかいライブ・スギダラキャラバンを通して、「木のある暮らし」を広く市民に提案した。
- ・山部会としては、「木づかいガイドライン作成の取組整理表」を作成した。

#### ②平成 28 年度の活動方針

- ・平成 26 年度に作成した提案型「さあ~しよう」の原案を基本に、提案者に原稿を依頼する。
- ・木づかいライブ・スギダラキャラバンを展開し、森や木づかいのファンを増やしていく。



## ◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

### ●山村再生担い手づくり事例集について

- ・ ホームページにおける取材先の掲載方法は、職種別と地域別の両方があるとわかりやすい。また、今回の取材者は事例集Ⅰの実施者を対象としているが、新たな懇談会メンバーも同行できる仕組みをお願いしたい。(浅田)
  - ▶ 取材先の掲載方法は、トップページで取材先が表示された地図が示され、選択により取材先の詳細にジャンプできるようにしている。取材者については、事例集Ⅱ、Ⅲの取材者に対しても声を掛けるようにしたい。(洲崎)
- ・ 成果をイメージしやすいように、取材内容のフォーマットを作成したほうが良いのではないかと。(蔵治)
  - ▶ 昨年度までの事例集の取材項目・内容に準ずるような、フォーマットを作りたいと思う。(洲崎)
- ・ 取材担当については、この場でリーダーを決めた方がよい。(蔵治)
  - ▶ 今日のところは、あくまで予定としてリーダーを決めたい。(洲崎)
- ・ 今後のスケジュールは、これまでの事例集作成と同様に8月までに取材担当者を決定して、9月～10月に取材を行い、年内に初稿を提出するものになると思う。(洲崎)

取材対象団体 (21 団体)	リーダー (予定)
根羽村森林組合、ねば杉っ子餅、根羽村猟友会	洲崎燈子
恵南森林組合、串原農林	蔵治光一郎
NPO 法人奥矢作森林塾、NPO 法人福寿の里自然倶楽部、(株)M-easy、旭木の駅プロジェクト	浜口美穂
矢作川水系森林ボランティア協議会、green maman、農業生産法人 みどりの里	蜂須賀功
とよた森林学校、とよた森林学校 OB 会、とよた都市農村交流ネットワーク、おむすび通貨 (一社) 物々交換局	沖章江
豊森なりわい塾、千年持続学校	丹羽健司
NPO 法人 中部猟蹄会・三州マタギ屋、岡崎森林組合、おおだの森保護事業者会	井上祥一郎

### ●矢作川流域山村ミーティングについて

- ・ 私が目指す I ターンミーティングは、既に郡上の水野雅夫氏が行っている。彼のもとには全国から集まった I ターンの人々がいて、色々な議論の蓄積があると思う。この地域のヒアリングにあたっては、彼に相談し、勘どころを押えたい。(丹羽)
- ・ 可能であれば、私も森林組合のヒアリングに同席させていただきたい。(蔵治)
  - ▶ 心強く思う。是非よろしくお願ひしたい。(丹羽)

### ●矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

- ・ 矢作川流域の間伐は、順調なペースと言えるのか。(浅田)
  - ▶ 目標とした間伐面積を比較すると、岡崎市では年間 450ha を目標としているが、2014 年の実績は 246ha と 60%にとどまっている。豊田市でも計画の 60～70%にとどまり、計画に達していない状況である。(蔵治)
- ・ 大規模な製材工場が稼働すれば、木材の生産意欲が高まるため、間伐ではなく皆伐に向かう可能性がある。皆伐は決して悪いことではないが、何らかのガイドラインを作る必要がある。(蔵治)
- ・ 一般論としては、木の成長量分だけ伐るという考え方がある。しかし、大径木が増える傾向がある中で、更新伐や次世代の若返りを図るための手法について、ガイドラインで示す必要があると思う。(今村)
- ・ 岐阜県では、計画の間伐量に届かなかったペナルティとして、要望の 6 割くらいの補助金額となっている。(小林)
  - ▶ 我々の南信州地域も同じで、要望の 5 割程度の補助金額となっており、人員整理の話まで出るほどだ。(今村)
- ・ 世界的な流れとして、針広混交林化があるが、流域の状況はどうか。(安藤)
  - ▶ 国も日本の 1000ha のうち、1/3 は天然林に変えていく計画になっている。これは、流域の豊田市や岡崎市でも、同様の計画となっている。(蔵治)
  - ▶ 根羽村では環境林、生産林、集落周辺環境林といったカテゴリーを作り、生産性の低い場所では、針広混交林にするなどのゾーニングを進めている。(今村)
- ・ 懇談会で周知されている近自然森づくりという概念も提案できればいいと思う。(蔵治)

### ●矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

- ・ 我々は、いつか流域の小学生が「曲げわっぱ」「木の表札」「流域ものさし」を普通に持ち、それらを介して四万十川とか信濃川流域の小学生と交流できる日がくることを願っている。(今村)
- ・ 今年の木づかいライブ・スギダラキャラバンの予定に 11 月に開催する「いなかとまちの文化祭」を加えてもらいたい。(洲崎)
- ・ 我々は、道具と材料を提供するので、山部会の皆さんには、木づかいの先生になってもらいたい。(今村)
  - ▶ 矢作川流域ものさしづくりワークショップなどは、矢作川研究所の行事にふさわしいと思う。(洲崎)

## 今後のスケジュール (予定)

次回の山部会 WG は、7月22日(金)～23日(土) 根羽村にて開催します。

### ◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 大森、技官 宇野

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

\*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@ijnet.or.jp) までお送りください。

